

劇場実験

墓地

の

上演

作・演出 | 筒井潤

出演 | 片山寛都 熊澤洋介 七面 鳥子 保井岳太



京都芸術大学 共同利用・共同研究拠点形成事業

〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉

*

2023年度テーマ研究Ⅰ「舞台芸術を用いた〈他者〉との対話の場の構築
と継続—旧真田山陸軍墓地を巡る二つの創作を通して—」

研究代表：岡田落子

京都芸術大学



since 2013

演出助手 | 七面 鳥子

アンダースタディ | 倉茂駿 ジュリ太郎 ワタナベモモコ

舞台監督 | 北方こだち

照明 | 川島玲子

映像操作 | 福岡想

宣伝美術 | 中村詩おり

制作 | 阪田愛子

日時 |

2024年3月9日(土)※

2024年3月10日(日)

13時30分開演

・受付・開場は開演15分前

・上演中に観客との対話の場を二度実施。

・上演時間は対話の場を含め1ステージ約3時間を予定。

※聴覚障害のある方や耳の聞こえにくい方のためのサポートあり。対話の場では手話通訳、上演の鑑賞ではテキストを配布するなど対応します。上記日程をご選択のうえご予約時にお知らせください。詳細は問い合わせ先までご連絡ください。

「対話の場」における手話通訳(3月9日(土))

13:30 公演のみ) : TA-net

鑑賞料 |

無料・要予約

定員 |

先着30名

※定員になり次第、予約受付を終了します。

予約取扱 |

<https://forms.gle/NEnTVh19iuM7wmwU6>

予約受付開始 |

2024年2月8日(木)

関連講座 |

小田康德氏(NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会 理事長、大阪電気通信大学 名誉教授)による旧真田山陸軍墓地についての講座を実施します。

日時: 3月9日(土)、10日(日) いずれも10時30分~12時

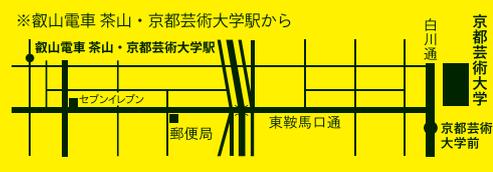
会場: 京都芸術劇場楽屋

参加費: 無料

申し込み時に当講座への参加をご選択ください。

会場 | 京都芸術劇場 studio21 (京都芸術大学内)

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116



※バスは遅延する可能性があるため余裕を持ってお越しください。
※駐車場はございません。付近のコインパーキングは混雑が予想されますので、お車、バイクでのご来場はお控えいただき、なるべく公共交通機関をご利用ください。※車椅子でのご来場や、階段・段差のある場所の移動が難しい方はお申込の際にお知らせください。

問い合わせ |

京都芸術大学 共同利用・共同研究拠点事務局

Tel : 075-791-9144

E-mail (事務局) : kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp

主催 |

学校法人瓜生山学園 京都芸術大学〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉

協力 |

京都芸術センター制作支援事業

京都芸術大学舞台芸術学科、京都芸術大学映画学科、京都芸術センター、NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net)、京都大学、大阪芸術大学、劇団ゆうそーど、ユニットめうつり、岡田祥子、吉岡武

研究統括 | 岡田 露子 (研究代表者、演劇研究者、現代演劇)

研究メンバー |

筒井潤 (共同研究者、劇作・演出、dracom)

山崎達哉 (共同研究者、大阪大学中之島芸術センター)

高安美帆 (共同研究者、エイチエムピー・シアターカンパニー)

小田康徳 (研究協力者、NPO 法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会 理事長、大阪電気通信大学 名誉教授)

阪田愛子 (研究協力者、制作)

研究紹介とこれまでの簡単な経緯 |

本研究は、舞台芸術が戦争に関する「複層的な記録／記憶の集積の場」を、どのように他者との対話の場へと拓き得るのかという問いを探るものです。

「旧真田山陸軍墓地」は、国家と個人を巡る記録と記憶が複層的に集積する特殊な時空間です。研究統括の岡田は、演劇研究者の視点を持って NPO 法人「旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」に関わり、当地を巡る対話を芸術で生み出す可能性を探ってきました。その一環で 2022 年 2 月には劇作家・演出家の筒井によるサイトスペシフィックパフォーマンスが行われ、本研究もその流れの中にあります。

2023 年 4 月から、月に 1～2 回の話しあい／研究会／フィールドリサーチを重ねながら、何に焦点を当てるか、上演という枠組みでは出来ないことは何で、出来ることは何かと考えてきました。11 月に公募で出演者が決まり、1 月から本格的に稽古が始まります。この文章を書いている今は 12 月で、年度的には終盤ですが、内容的にはいよいよこれからです。

3 月の上演は、対話の時間が組み込まれた上演構造となっています。これは筒井による提案で、非常に面白いと思いました。対話の時間の組み立ては岡田が担当するのですが、どう組み立てるかは今から共同研究の山崎、高安と共に詰めていく予定です。上演を観た人が話しやすい環境を整えたいと思うのですが、なかなか難しいです。そもそも観てすぐ話し合うなんて、私自身も得意なことではありません。紙面上で研究計画を練る段階と、実際に対話の場を拓く前提で考えることの差を感じています。

今回の 3 月の上演は、1 年間の集大成になりますが、あくまで「劇場実験」です。上演の場がどのように動き出すのか、どのような対話を創出できるのか／できないのか、やってみないとわかりません。実験にご参加いただける方、劇場でお待ち申し上げます。(研究統括・岡田露子、2023 年 12 月初旬)

プロフィール |

筒井潤 (つついじゅん) / 作・演出

演出家、劇作家。大阪を拠点とする公演芸術集団 dracom のリーダー。2007 年京都芸術センター舞台芸術賞受賞。dracom として Sound Live Tokyo 2014、NIPPON PERFORMANCE NIGHT(デュッセルドルフ)、東京芸術祭ワールドコンペティション 2019 などに参加。dracom 以外には DANCE BOX 主催『新長田のダンス事情』(TPAM2014 参加)、京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)舞台芸術研究センター主催『破壊の子ら』で演出、ルリー・シャバラ『ラウン・ジャガッ:極彩色に連なる声』(KYOTO EXPERIMENT 2021)では空間演出を担当。他に山下残、マレビトの会、維新派、桃園会、羽鳥嘉郎、akakilike、悪魔のしるし、ホー・ツーニエン、荒木優光などの公演や作品に参加。

旧真田山陸軍墓地には昨年度から関わり、2023 年 2 月に、「旧真田山陸軍墓地のエコミュージアム化プロジェクト」(大阪大学大学院文学研究科「徴しの上を鳥が飛ぶⅢ—文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム」の演出・出演を担当。

片山寛都 (かたやまひろと) / 出演

京都大学人間・環境学研究科芸術文化講座在学。

2019 年より京都大学演劇サークル劇団ケツペキに所属。現在は卒団し、劇団ゆうそーど。の代表をしている。主な出演作に劇団ケツペキ「左京区吉田マル番地木造六畳風呂なしアパートとなりのゆ」など。

熊澤洋介 (くまざわようすけ) / 出演

京都大学人間・環境学研究科修士課程在学(社会学)

2022 年、演劇ビギナーズユニット #28『日本文学盛衰史』にて演劇をはじめ。これまでにガクウチ『髪をかきあげる』、劇団ヨアガキ『墓穴』の公演に参加している。

七面 鳥子 (しちめん ちょうこ) / 出演・演出助手

大阪芸術大学芸術学部舞台芸術学科演技演出コース在学。

主な出演作として劇団竜人世界『全力青春クラブ♣』、大阪芸術大学舞台芸術学科『1 回生学内発表会』、『新聞記事から劇をつくる』など。

保井岳太 (やすいがくた) / 出演

京都芸術大学 舞台芸術学科在学。

敷地理『Hyper Ambient Club』、Super D『楽園』『静かの海』、大学内の授業発表公演や自主企画などに多数出演。京都でパフォーマンス作品制作も行っている。

旧真田山陸軍墓地の紹介 |

旧真田山陸軍墓地は、1871年日本で最初に設置された兵隊埋葬地で、JR大阪環状線玉造駅から徒歩数分の場所にあります。ここには、戦地で死んだ日本兵だけでなく、事故死や自殺など兵営生活との関わりで死没した者や、日本と戦った外国人俘虜の墓碑などもあり、明治以来敗戦に至るまでの日本の軍隊と戦争及びそれに関わることを余儀なくされた人々の歴史を今に伝え続ける記録の貯蔵庫でもあります。現在は(財)「真田山陸軍墓地維持会」が慰霊祭や墓地清掃、墓石の補強などの維持・管理を行うと同時に、NPO法人「旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」が、学術調査や定期的な研究会の開催、書籍の刊行等を行い、多様な観点から場が持つ歴史を複層的に読み解いています。(詳しい歴史はNPO法人のウェブサイト <https://www.assmcc.org/> をご参照ください。)

上演構造 |

大阪市天王寺区玉造町にある旧真田山陸軍墓地にまつわる記録や記憶をもとに創作された、演劇上演のための複数ある小さなピースのうちのいくつかは、観客によるくじ引きによって選ばれ、順番が決まり、上演されます。そのあと観客のみなさんと一緒に対話する時間を設けます。そしてもう一度くじを引き、内容の一部や順番が異なるバージョン違いの上演をおこない、あらためて対話に臨みます。

創作されたテキストや上演だけでなく、対話も含めたこの催しの構造自体がひとつの作品となっています。

公演の流れ

くじ引き①

上演するピースと、その順番が決定

↓

上演①

↓

対話、休憩

↓

くじ引き②

↓

上演②

1回目の上演とは異なるピースがあったり順番が違ったりする別バージョン

↓

さらなる対話

舞台芸術の公演では、アフタートークのあとには同じ観客の前で再び上演を観ることはないのが前提です。その前提を崩してみるのが今回の試みです。とはいえ完全に同じ上演をするわけではありません。旧真田山陸軍墓地についてリサーチをしていて、ひとがこの場所に初めて出会ったとき、どのような記録や逸話に、誰を通して、いかなる順序で触れるかによって印象はそれぞれに異なるだろうと感じたことから、このような着想を得ました。